

『魅力ある授業づくり』の 5年間の振り返って

大学教育研究センター

『魅力ある授業づくり』の 5年間の取り組み

18歳人口の半数以上が大学に進学する時代になり、大学の教育現場が変わりつつあることは、学生の皆さんも知っているのではないでしょうか。本学でも時代の変化に合わせた教育に取り組んできました。

特に、2008年度以降は『魅力ある授業づくり』という全学の重点目標を掲げて、さまざまなチャレンジを試みてきました。ここでは、2012年度までの取り組みとその成果について紹介します。

5年間の主な取り組みは、

- ① 毎年全教員が行う「教員個人における教育活動の目標設定と自己評価」の実施
- ② 主に教員相互の授業見学と評価による「授業改善の取り組み」
- ③ フォーラム講演会
- ④ 主に教授法に関する「研修プログラム」
- ⑤ 大学教育を取り上げた意見交換会「FDカフェ」



「教員キャリアアッププログラム」の様子。
元東海テレビアナウンサーの芳川 猛客員教授による話し方講座。

⑥ 出版物「中部大学教育研究」『教育・研究に関する実態資料』

⑦ 教育活動顕彰制度
などがあり、【表】の通り実施しました。

また、②「授業改善の取り組み」には、「学生による授業評価」も含まれます。②～⑤のプログラムには5年間で7割強の専任教員が参加しており、職員の参加も増加傾向にあります。これらのプログラムの詳細は大学教育研究センターホームページをご覧ください。

Web・携帯・スマホを 利用した授業評価

学生の皆さんが参加した授業評価について取り上げてみましょう。1995年から実施してきた「学生による授業評価」は、2008年に従来のマークシートからWebを利用する新たな方式に変更し、2010年度秋学期から携帯電話、2012年度春学期からスマートフォン対応へと大きく変わりました。実施科目も原則としてすべての学部授業を対象とし、授業形態にかかわらず複数教員で担当する授業科目についても実施しました。これは担当するすべての教員に授業に対する責任の所在を明らかにすることを意図したものです。

また、2008年にすべての授業を振り返って回答する「教員による授業自己評価」を新たに実施し、学生と教員の意識の差について、見える化を図ると同時に、受講生からの回答結果を総合的に分析し、自由記述のまとめを含む教員のコメントを学内に公開するといった回答

魅力ある授業づくりの考え方

『魅力ある授業づくり』は、学生と教員が協同して行うものです。

魅力ある授業……(学生にとって)興味を持って聴ける授業、将来において役立つ授業。

(教員にとって)学生の成長を実感できる授業、学生から感化を受ける授業。

授業づくり……(学生が目指す)自主的に学ぶ態度、知識・技術の修得。

(教員が目指す)授業改善、授業スキルアップ。

(学生と教員が目指す)双方向のコミュニケーション。

者へのフィードバックだけでなく、授業評価が学生と教員のコミュニケーションツールとしての役割を果たすものになりました。

この他にも受講生の振り返りを促す仕組みとして、集計結果の表示画面に受講生自身の回答を二縮に表示するようにしたこともWebを利用した利点です。

授業評価からみた『魅力ある授業づくり』の5年間の成果

さらに、学期中の授業改善を補うために、授業の受講生を対象に教員が学期中何回でも実施できる「授業改善アンケートシステム」を授業評価のWeb化と同時に運用しました。

【表】2008～2012年度の『魅力ある授業づくり』の活動実績と参加者数

取り組み	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
① 教員個人における教育活動の評価点検(提出率)	90.8%	95.9%	97.4%	97.0%	97.4%
② 全学公開授業 授業サロン		※2回	3回	3回	2回
	※1回	2回	2回	2回	3回
③ FDフォーラム FD講演会	1回	1回	1回	1回	
	2回	2回	2回	1回	4回
④ 教員キャリアアッププログラム		※3回	3回	9回	7回
⑤ FDカフェ					※1回
プログラム実績参加数 職員・非常勤講師含む	296人	372人	328人	357人	445人

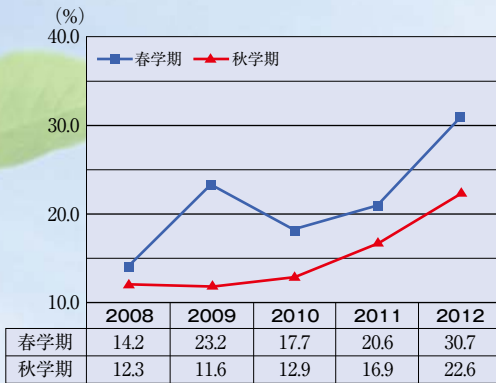
※プログラム開始年度を示す。

FD(Faculty Development)とは大学の授業改善のための組織的な取り組みを指す。

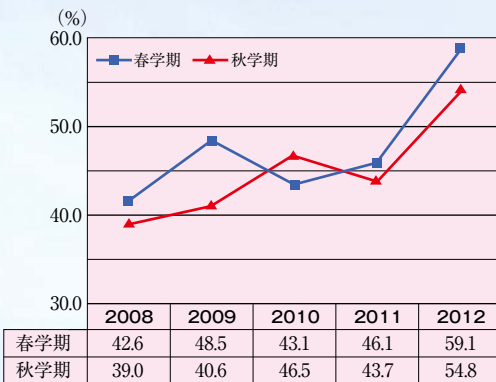
Web化する前から危惧されていた学生回答率は減少しましたが、自由記述は旧方式の10倍以上(春秋学期合わせて…2007年度は約400件、2012年度は約6000件)に増加しました。自由記述の内容もWebを利用してからは、授業改善への提言や教員への感謝の言葉など前向きな意見が多くみられるようになったのも特徴です。

『魅力ある授業づくり』の5年間を振り返って

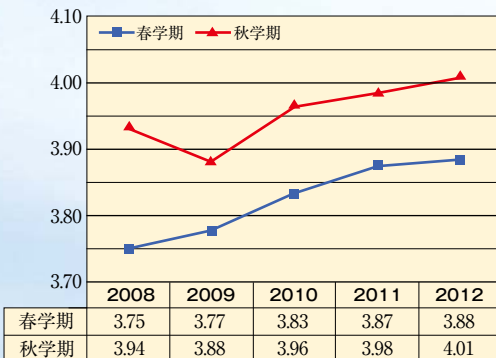
【図1】学生による授業評価 回答率



【図2】授業評価 教員コメント率



【図3】学生による授業評価 設問8の平均ポイント



また、【図1】の学生回答率、【図2】の教員の自己評価や学生へのフィードバックとなる教員のコメント率のいずれも上昇傾向にあることが明白です。Web化することで回答率は一般に減少すると言われるますが、学生の皆さんのみならず教員も「授業評価」に対する意識が、この5年間で着実に高まってきています。

【図3】は、授業の総合評価となる設問8「この授業は総合的に魅力的な授業でしたか」の平均ポイント

トの推移を示しています。春学期および秋学期とも設問8の授業の総合評価ポイントはわずかずつでも上昇してきています。本学が進めてきたさまざまな取り組みが、教員および学生の皆さんに浸透してきたと言えるのではないのでしょうか。

2013年度以降も本学では『魅力ある授業づくり』を重点目標として掲げています。ここで紹介した取り組みだけでなく、学部学科においてもさまざまな取り組みが行

われています。2013年度には『魅力ある授業づくり』作品コンクールを実施し、学生の皆さんから68作品という多くの声寄せられました。作品の中にはコミュニケーションの大切さが多く語られていたのが印象的でした。学生の皆さんからの声を大切にしつつ、これからも皆さんと教職員とが一体となって中部大学発の『魅力ある授業』をつくっていきましょう。